希望新聞

東日本大震災希望新聞取材班
〒100－8051（住所不要）毎日新聞生活報道部
ファクス03・3212・5177
メールkibou@mainichi.co.jp

被災地に役立つ情報や「伝言板」への投稿をお待ちしています。被災者の今困っていることも募集します。投稿は、氏名、住所、年齢、職業、電話番号（あればメールアドレスも）を明記してください。

伝言板

▼福島県浪江町谷津田の田中良平さん(78)、菊地善次郎さん(73)、中越シゲヨさん(77)へ　近所の稲垣ミイコさん(77)が連絡を求めています。大震災の日に別れたきり、どこに避難したかわかりません。稲垣さんは家族3世代7人で、千葉県船橋市に避難しています。稲垣さんのいとこで、千葉市若葉区の藤本キヨ子さん宅（043・232・4648）に連絡をください。

×　×　×

▼群馬県に避難している東北地方の演劇鑑賞団体会員の方へ　県内の演劇鑑賞団体例会に参加できます。高崎演劇鑑賞会事務局（027・323・0955）に団体名、サークル名、名前、連絡先をお知らせくだされば、新たな入会金、会費は必要ありません。5月の演目は京楽座の「をぐり考」です。県内の3団体(伊勢崎、高崎、前橋)から、お近くの団体を紹介します。

▼中学生に無料で教えます　新潟県村上市田端町の須貝ビル2階で、学習塾「セミナー　なかま」（JR村上駅から徒歩3分）を経営する中倉睦子さんが、震災や原発事故で避難してきた中学生に無料で授業をしています。学年ごとに曜日を決め、約6人のグループで、1回110分の授業を週1～2回行います。中学1、2年生には数学と英語を、3年生には5教科教えます。「教材などはすべて準備します。電話（0254・52・7593）をください」

計1500人派遣の「ピースボート」
息の長い支援目指す

武田信大さん

非政府組織（NGO）「ピースボート」はこれまで約1500人のボランティアを宮城県石巻市に派遣し、炊き出しや泥かきなどに参加してもらった。現地でボランティアの受け入れ態勢を作った一人が武田信大さん(23)だ。武田さんは「被災地では圧倒的に人手が足り

ボランティア

ず、復興には長い時間がかかると感じた」とし、息の長い支援を目指して、現在は東京都新宿区の事務局でボランティアを送り出す活動をしている。

武田さんがピースボートの先発隊として被災地に着いた3月21日、周囲は水浸しで、船が道をふさいでいた。石巻専修大のグラウンドにテントを張ったが、ズボンを3枚重ねて寝ても、寒さで目が覚める状況だった。

行政の目が届かない小さな避難所や、自宅に残る被災者などを丹念に回った。何が必要か、何人ぐらいのボランティアが働けるかを調べた。自身も福祉施設の泥かきに参加。泥の中には危険物が多く、布団なども埋まっていて重い。約20人がかりでも、片づけたのは1日1部屋程度だった。

「ニーズを正しく伝え、他の団体の参考になるような派遣体制を築こう」と考え、今はボランティアをバスで派遣する裏方に専念する。被災者の顔が見える炊き出しと異なり、泥かきなどは疲労も大きく、直接感謝されないことも多い。「やりたいことができるわけではないと理解して、現地に向かってほしい」と呼びかける。問い合わせは事務局☎03・3363・7967。【榊真理子】

サポート情報
～東日本大震災～

7日現在

交通

■鉄　道

JR在来線の再開見込みは次の通り。

△石巻線＝前谷地―石巻は今月中旬。石巻―女川は未定

△仙石線＝東塩釜―高城町は今月下旬。高城町―石巻は未定

△常磐線＝久ノ浜―四ツ倉は今月中旬。亘理―久ノ浜は未定

◇

再開の見通しが立っていないのは次の区間。

△八戸線＝階上―久慈

△岩泉線＝茂市―岩泉

△山田線＝宮古―釜石

△大船渡線＝気仙沼―盛

△気仙沼線＝柳津―気仙沼

JR以外の路線状況は次の通り。

△三陸鉄道北リアス線＝久慈―陸中野田、小本―宮古で運行。陸中野田―小本は再開未定

△三陸鉄道南リアス線＝釜石―盛の全線で不通。再開未定

△仙台空港アクセス鉄道＝名取―仙台空港の全線で不通。名取―美田園は7月末、美田園―仙台空港は9月末再開予定

△阿武隈急行＝16日に全線復旧予定。復旧工事に伴い13日10時～16時半、角田―槻木が臨時運休

■バ　ス

△岩手県北バス＝路線バスは盛岡営業所☎019・641・2220　高速バスは盛岡南営業所☎019・637・1100　盛岡と仙台、郡山、福島などの路線を運行

△岩手県交通＝☎0199・65・4755　10日から一関駅前―須川温泉が再開。盛岡バスセンター―滝沢駅前など深夜バス全4路線が9日から再開

△ミヤコーバス＝☎0192・71・5310　9日から志津川―本吉駅前の臨時運行を開始。志津川―気仙沼駅が結ばれる

△JRバス東北＝☎022・256・4512（仙台支店）　仙台―いわき、仙台―古川などで運行

△東日本急行＝☎0224・83・3131　仙台―登米、仙台―一ノ関などで運行

△仙南交通＝☎0224・52・1234　仙台空港―JR仙台駅で運行

△仙台空港鉄道＝☎022・707・2235　仙台空港―JR名取駅で運行

△福島交通＝☎024・531・2706（福島支社）、☎024・943・1651（郡山支社）　福島と会津若松、いわき、郡山、伊達―仙台などで運行

■国内線

仙台空港発着の定期便は、日本航空、全日空とも5月中は全便欠航し臨時便のみの運航。9～22日の運航予定は次の通り。

△花巻空港＝新千歳便＝3往復▽伊丹便＝4往復。ともに日本航空

△仙台空港＝新千歳便＝日本航空、全日空、北海道国際航空が各1往復▽中部便＝全日空1往復▽伊丹便＝日本航空3往復、全日空2往復

△山形空港＝新千歳便＝日本航空、北海道国際航空ともに1往復▽羽田便＝日本航空1往復▽中部便＝全日空1往復▽伊丹便＝全日空1往復、日本航空3往復

医療

△岩手県＝宮古、釜石、気仙地区の休日当番医は次の通り。8日＝加賀谷消化器科内科医院（釜石市）、吉浜診療所（大船渡市、内科）。休日急患は県立宮古病院

△宮城県＝県休日・夜間診療案内▽仙南地区☎0224・53・3409▽仙台地区☎022・216・9970（仙台市内は☎022・216・9960）▽大崎・栗原、登米地区☎0229・24・2267▽石巻地区☎0225・95・3290▽気仙沼地区☎0226・24・2154　福島第1原発事故に関する健康・医療相談窓口☎0223。宮城県庁1階。受付時間は9～17時。

△福島県＝救急医療情報案内サービス☎0120・963・990

△茨城県＝救急医療情報システム☎029・241・4199

■歯　科

岩手、宮城の県歯科医師会が沿岸地域の避難所を中心に巡回診療をしている。

△岩手県＝9日＝織笠小（10～12時）、陸中海岸青少年の家（14～16時）▽10日＝豊間根中（10～15時）

△宮城県＝9日以降も移動診療車による巡回診療を続ける予定。

イベント

△岩手県＝げいび渓舟下り　一関市東山町長坂。所要90分間の通常運航を再開。売り上げの一部を義援金として寄付し、乗船券に証明スタンプを押す。☎0191・47・2341

△宮城県＝東北大学植物園　仙台市青葉区川内。10日から一部開園。地震により一部施設の破損・倒壊、地割れなどが発生したため、立ち入り禁止区域などを設定したうえで、安全が確認された場所のみ公開する。全面開園の時期は未定。☎022・795・6760

ニッカウヰスキー仙台工場　仙台市青葉区の工場見学を再開。地震で一部損壊した醸造設備などを復旧し、ウイスキー製造を始めた。製造工程見学や酒類の試飲ができる。9時～15時半。☎022・395・2865

酒造会社一ノ蔵見学　宮城県大崎市の酒造会社「一ノ蔵」が9日から、震災で中止していた蔵見学を再開。震災で貯蔵タンクが傾くなど蔵の設備が破損。今期の仕込みは中断したが、蔵人が修繕に努めた結果、4月18日に再開した。見学は平日のみで無料。予約が必要。同社☎022・955・3322

△茨城県＝アクアワールド大洗　8日まで中学生以下入場無料。9～17時（最終入館16時）。☎029・267・5151

商業施設

△岩手県＝盛岡駅ビル・フェザン　通常営業（営業時間はテナントごとに異なる）。8日は母の日フェアとして、3000円以上購入の先着200人に「紅白かもめの玉子」プレゼント。8日まで、各店の募金箱に寄付した人にオリジナルティッシュを配布。

イオン一関店　一部短縮営業。また、大船渡市赤崎町のサンデー大船渡店（休業中）駐車場で、10～15時に出張販売所を設けている。

イトーヨーカドー花巻店　営業時間1階9～21時、2階9～20時。8日は冷凍食品半額セールなど。

△宮城県＝藤崎　営業時間10～19時。毎土日15時半～16時に本館玄関前で復興支援コンサート。8日は青葉城址男声合唱団。8日はプロカメラマンが家族写真を撮影、撮影料を義援金とする「家族の絆　写真撮影会」も。11時半、14時半に各回先着50組、撮影料500円。

藤崎石巻　10～18時半で営業。

エスパル仙台　本館、エスパルⅡ10～21時、レストラン街10～23時で通常通り営業。震災当日から営業再開（4月29日）までの歩みを紹介する震災復興写真展、感謝と再起のメッセージを撮影する「ありがとうを届けよう3・11プロジェクト『東北は負けない』in エスパル」などを特設会場で開催。

△福島県＝イオンスーパーセンター南相馬店　6日から、イオンと一部専門店が10～15時で営業を再開。不二家▽たい夢▽ペットシティ▽クリーニングマーティー▽美容室ヘアデザインSUNなど。

イトーヨーカドー平店　10～21時まで営業。9日から、いわき市内（店舗5キロ圏内）でインターネットで注文を受け付け、商品を即日配達するネットスーパーを開始。福島店、郡山店では既にサービス開始済みで、県内3店舗すべてでネットスーパー利用が可能に。利用の際は専用サイト（https://www.iy-net.jp/）で会員登録が必要。

ロックタウン須賀川　ショッピングセンターユニクロ、ABCマート、ハニーズ、洋服の青山、宮脇書店、西松屋などがほぼ通常通り営業（営業時間は店舗により異なる）。

その他

■眼　鏡

メガネ・パリミキ（本社・東京都品川区）の避難所巡回の予定は次の通り。視力を測り、既製品から比較的合った眼鏡（近視、遠視、老眼）と補聴器を無償で提供する。修理も行う。補聴器用電池も提供。お客様センター☎0120・101・909。

△岩手県＝◆大槌町　9日＝浪板地区交流センター（13時～16時半）▽12日＝蕨打直集会所（同）▽13日＝町役場金沢支所（同）

△宮城県＝◆南三陸町　10日＝志津川自然の家（13時）、志津川高校（15時）▽11日＝歌津中学校（13時）、平成の森（15時）

商業施設

■写真などを巡回公開

防災科学技術研究所（茨城県つくば市）は8日10～13時、岩手県陸前高田市の「気仙大工左官伝承館」駐車場で、津波で流出した写真や位牌（いはい）、寄せ書きなどを公開し、所有者に返還する。会場では、所有者不明のものの回収も引き受ける。

また同日以降、市内各地への巡回公開も予定している。会場で巡回先を募集する。

2トントラック2、3台分の駐車スペースを確保できる避難所などが対象で、期間は半日でもかまわない。9日以降の問い合わせ先は未定だが、決まり次第「広報りくぜんたかた」に掲載する。

就職セミナー
「前に進もう」

就職情報サイト「マイナビ2012」を運営する毎日コミュニケーションズは12日13～17時、仙台市青葉区中央のホテルメトロポリタン仙台で、合同企業説明会「みんなで前に進もう。マイナビ就職セミナー」を開く。

東北地方で予定していた同社の就職セミナーは軒並み中止になっており、震災後の開催は初めて。

対象は、12年春に大学や専門学校を卒業予定の人や、就職活動中の既卒者。約50社の参加を予定している。

12日に仙台で開催
毎日コミュニケーションズ

企業ブースのほか、マイナビ編集長の講演、カウンセリングコーナーがある。また、被災者支援のため、スーツやネクタイなど就活用衣類のフリーマーケットも設ける。参加費無料、服装自由。同社は5月29日、7月7日にも仙台市内でセミナーを開く予定。

リングに笑顔走る

避難所で開かれたプロレスのリングに上がり遊ぶ子どもたち＝福島県郡山市のビッグパレットふくしまで5日、武市公孝撮影

がんばろう

ケータイ小説家
十和（とわ）さん

被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。地震が起きた時、まっさきに東日本の読者さんのことを思い浮かべました。インターネットや作品を通して毎日のようにやり取りをしていたので、会ったことはなくても、読者の皆さんとは友人のような強いつながりを感じています。今も被災地から届けられる言葉を読むたびに、いろんな感情がこみあげます。

先日、宮城県の女性から、避難所への差し入れに私の本をリクエストしてくださったと聞きました。私の作品に限らず、ケータイ小説は若い主人公が困難を乗り越えたり、読み終えて幸せな気持ちになるお話が多くあります。読んでくださった方の気分転換に少しでも役立てればうれしいです。

復興への道のりは長いですが、皆さんと、皆さんの大切な人たちが、安心して笑える日が早く訪れることを祈っています。私も小説を通してそのお手伝いができるよう頑張ります。

ミニニュース

△岩手県＝◆大槌町　9日＝浪板地区交流センター（13時～16時半）▽12日＝蕨打直集会所（同）▽13日＝町役場金沢支所（同）

△宮城県＝◆南三陸町　10日＝志津川自然の家（13時）、志津川高校（15時）▽11日＝歌津中学校（13時）、平成の森（15時）

■被災地へボランティアに行くには■

県外から個人や小規模グループのボランティアを受け付けている主な窓口は次の通り。被災地の災害ボランティアセンター（VC）に直接申し込む場合は、問い合わせの電話をする前にサイト情報の確認を。特記のない限り、宿泊場所や交通手段の提供はない。

＜岩手県＞

宿泊地や食料を確保しやすい内陸部を拠点に、沿岸部の被災地へ、送迎バスでボランティアを派遣している。

◆県VC　☎019・637・9711　県VCと盛岡市社協がそれぞれ同市発着便を、花巻市社協が同市発着便を不定期で運行している。募集は企画ごとにサイトで公開。県VC関連で、旅行会社が東京発着便の募集情報を掲載している

◆遠野市VC「遠野まごころネット」　☎0198・62・1001　遠野市発着便でほぼ毎日派遣し、登録受け付けも随時。事前申し込みが必要。体育館で宿泊可（寝袋などが必要）

＜宮城県＞

一部のVCが、県外からの個人ボランティアも直接受け付けている。

◆石巻市VC　☎0225・23・6015　テントサイト有り。要事前連絡。ゴールデンウイーク中は不可

◆東松島市VC　☎0225・83・5001　5人以上の団体は事前連絡を。ゴールデンウイーク中は不可

◆岩沼市VC　☎080・5949・7541　テント村有り。8人以上の団体は事前連絡を

※兵庫県などが設置する「東北自動車道ボランティア・インフォメーションセンター」（☎022・377・3122）が、主に宮城県のボランティア情報を提供している。

＜福島県＞

一部のVCでは、県外からの個人ボランティアも直接受け付けている。

◆相馬市VC　☎0244・36・7827　土日祝日のみ。要電話確認

◆南相馬市VC　☎0244・24・1877　テント泊、車中泊は禁止。要電話確認

◆いわき市災害救援VC　☎0246・22・5501　要電話確認

＜全国各地からボランティアバス＞

全国各地の社会福祉協議会や市民団体、旅行会社などが各地発着のボランティアバスを企画している。募集期間や内容は各団体のサイトなどで公開される。主な団体は次の通り。

◆東京都発着　東京ボランティア・市民活動センター▽日本財団「ROADプロジェクト」▽ピースボート▽トップツアー▽名鉄観光◆栃木県発着　とちぎボランティアネットワーク◆埼玉県発着　富士見市社協▽行田市社協◆愛知県発着　愛知VC▽レスキューストックヤード◆三重県発着　みえ災害ボランティア支援センター

電話帳

●行方不明者相談ダイヤル
岩手県警　0120・801・471
宮城県警　022・221・2000（9～19時）
福島県警　0120・510・186（9～19時）

●通信・ライフライン
NTT災害用伝言ダイヤル　171
日本郵便　0120・2328・86（平日8～22時、土日祝9～22時）
東北電力　0120・175・366

●医療
＜放射線被ばく相談＞
文部科学省健康相談ホットライン　0120・755・199（9～21時）
放射線医学総合研究所相談窓口　043・290・4003（9～17時）

＜その他＞
日本医師会　03・3946・2121
日本糖尿病協会0120・151・721（平日9～18時）
被災がん患者ホットライン（国立がん研究センター）
紹介状あり＝03・3547・5130（平日10～16時）
紹介状なし＝03・3547・5293（平日9～18時）
てんかん支援ホットライン　054・245・5446
アレルギー支援ネットワーク　052・485・5208

●生活支援
日弁連電話相談0120・366・556（平日10～15時）
岩手弁護士会　0120・755・745（13～16時）
仙台弁護士会　0120・216・151（10～16時）
福島県弁護士会024・534・1211（平日14～16時）
全国社労士会連合会　0120・000・528（平日10～17時）
日本司法書士会連合会　0120・445・528（平日10～16時）
あしなが育英会　被災者専用　0120・77・8565（遺児らに特別奨学一時金を支給）
心の相談緊急電話　0120・111・916（13～22時。日本臨床心理士会など）
チャイルドライン　0120・99・7777（月～土16～21時、18歳までの子ども向け）
震災関連の悪質商法110番　0120・214・888（10～16時。国民生活センター。岩手、宮城、福島、茨城4県対象）

●省庁　※平日のみ
公営住宅等情報センター　0120・297・722（9～18時。全国の公営住宅などを紹介）
住宅の補修・再建（国交省）　0120・330・712（月～土）
行政相談（東北管区行政評価局）0120・511・556
金融相談（東北財務局）　022・721・7078
中小企業相談（経産省）　0570・064・350
農林水産業の被害相談（農水省）0120・355・567
年金の相談（日本年金機構）　0120・707・118※

●金融・保険　※平日のみ
ゆうちょ銀行　0120・108・420
住宅金融支援機構　0120・086・353
日本政策金融公庫　0120・154・505（土日0120・220・353）
預金口座照会センター（全銀協）0120・751・557※
災害地域生保契約照会センター（生保協会）　0120・001・731※
そんがいほけん相談室（日本損保協会）　0120・107・808または03・3255・1306

●移転した役所
＜岩手県＞
陸前高田市　エコタウン鳴石　0192・59・2111
釜石市　シープラザ釜石　0193・22・8253
大槌町　大槌小学校　0193・42・2111
＜宮城県＞
女川町　女川第二小学校　0225・54・3131
南三陸町　町総合体育館ベイサイドアリーナ　0226・46・2600
＜福島県＞
広野町　FDKモジュールシステムテクノロジーいわき工場　0246・43・1331
楢葉町　会津美里町本郷庁舎　0242・56・2155
富岡町　郡山・ビッグパレット　0120・336・466
川内村　郡山・ビッグパレット　024・946・8828
大熊町　会津若松市追手町第2庁舎　0242・26・3844
双葉町　旧埼玉県立騎西高校　0480・73・6880
浪江町　二本松市東和支所　0243・46・4731
葛尾村　会津坂下町・川西公民館　0242・83・2651
★双葉郡支援センター　0120・006・865
上記8町村の避難住民向け。8～22時

興行色消して出直し

大相撲技量審査場所 きょう初日

大相撲の技量審査場所が8日、東京・両国国技館で初日を迎える。2月に発覚した八百長問題の影響で、日本相撲協会は3月に大阪で予定していた春場所を中止。その後の調査も長期化し、問題が解決しないため、5月の夏場所の開催も断念した。7月に予定している名古屋場所の番付編成のための技量審査の場所として、夏場所に代わって15日間、無料公開される。

八百長に関与したとして25人の力士、親方が角界から事実上追放され、幕内で7人、十両で10人が引退・解雇となった。初場所以来4カ月ぶりとなる今場所は幕内35人、十両18人で行い、取組数が通常より減る。

協会は再発防止策として、今場所から十両以上の力士とその付け人らに対し、支度部屋への携帯電話の持ち込みを禁じた。八百長相撲を監視する監察委員も増員し、東西の支度部屋や土俵下に配置して目を光らせる。

成績は本場所と同様に正式記録として扱われ、横綱・白鵬は朝青龍に並ぶ歴代最多の7場所連続優勝がかかる。また、琴奨菊、稀勢の里の両関脇が大関昇進に挑む。

興行色をなくすため、天皇賜杯など外部表彰と懸賞金はすべて自粛・辞退。表彰は幕内優勝者への優勝旗や殊勲、敢闘、技能の三賞など協会内部のものに限られる。

NHKは中継やダイジェスト放送を中止したが、全取組が協会の公式サイトなどでインターネット中継される。2階椅子席の当日券が毎日1000枚ずつ、国技館のチケット売り場で午前8時から先着順に配布される。

協会の放駒理事長(元大関・魁傑)は7日、「力士が土俵の上で相撲を取れることに、ホッとしている。相撲はいいと再認識してもらえるような相撲を取ってもらいたい」と語った。【飯山太郎】

土俵祭に出席する放駒理事長(前列中央)や白鵬(3列目中央)ら=両国国技館で7日午前10時26分、木葉健二撮影

「すしで元気に」

南三陸 マグロ解体ショー

大震災の避難所になっている宮城県南三陸町の総合体育館で7日、マグロ解体ショーがあり、1200食分が振る舞われた。

回転すし店「がってん寿司」などを全国展開しているRDC(埼玉県熊谷市)が企画し、愛媛県宇和海産の本マグロ(約50キロ)2匹が用意された。すし職人がノコギリと牛刀で手際よくさばいていった。マグロは2400食分のすしになり、被災者らはおいしそうに食べていた。

同町の無職、猪又東さん(76)は「震災前の活気があった町を思い出した。早く復興させたい」と喜び、企画したRDCの大島敏会長(60)は「感謝の気持ちで迎えてくれて逆に元気をもらった」と話していた。【三村泰揮】

マグロの解体ショーで、避難所の人たちを前に本マグロを下ろす職人=宮城県南三陸町で7日午後4時35分、手塚耕一郎撮影

試合中ベンチからチームメートを応援する「南相馬ボーイズ」の選手たち=福島県会津若松市で7日

みんな集合 野球できた

会津若松

福島第1原発事故のため避難している子供たちが震災後、初めてグラウンドで白球を追った。福島県会津若松市の河東野球場で中学生の少年野球・ボーイズリーグの東北会津大会が開かれ、南相馬市の「南相馬ボーイズ」(鈴木宏二監督)の選手たち23人が参加した。

選手たちは、全国各地の避難先から集まった。

「いわきボーイズ」との対戦は0−7で敗れたものの、避難先が宇都宮市の主将・星晴樹君(15)は「みんなと野球ができてよかった」と語った。【竹内幹、写真も】

原発やめろ 渋谷でデモ

「脱原発の一点でつながろう」と市民有志による「原発やめろデモ!」が7日、東京・渋谷や原宿周辺で行われ、約1万5000人(主催者側発表)が参加した。

東京電力福島第1原発の事故を受け、杉並区高円寺北のリサイクルショップの経営者やミュージシャンらが企画した。先月10日の高円寺でのデモに次ぐ第2弾で、参加者は「バイバイ原発」「エネルギー政策の転換を」などと書かれた手作りのプラカードを掲げた。

川崎市から来た妊娠7カ月の大富香織さん(37)は「(静岡県御前崎市の)浜岡原発の停止が実現しそうなのでほっとしている。生活を見直し、子どもが安全に暮らせる社会を築きたい」と話した。【明珍美紀】

原発反対を訴えて渋谷駅前をデモ行進する参加者=東京都渋谷区で7日午後4時44分、須賀川理撮影

埼玉の避難所慰問

皇太子ご夫妻

皇太子ご夫妻は7日、東日本大震災の避難所になっている埼玉県三郷市の瑞沼市民センターを慰問した。ご夫妻が避難所を見舞うのは、4月6日の味の素スタジアム(東京都調布市)以来2回目。

センターでは、福島第1原発事故で避難している福島県広野町などの被災者ら約200人が生活している。地震の際、福島第2原発近くで道路工事をしていたという坂本一光さん(37)は、津波の第1波が押し寄せる模様を撮影した写真をご夫妻に見せた。その時、坂本さんには、お年寄りら約20人の姿が近くに見えたが、車に乗せて一緒に逃げることができたのは5人ほどだったという。雅子さまは「心に傷が残るようで大変ですね」といたわった。

皇太子さまは製造業、坂本邦弥さん(31)に「一時的にご自宅に帰れる機会はあったのですか」と気遣った。【真鍋光之】

被災者に励ましの言葉をかける皇太子ご夫妻=埼玉県三郷市の市立瑞沼市民センターで7日午後3時38分(代表撮影)

一時帰宅 10日川内村、正式発表

国対策本部 代理人も認める

東京電力福島第1原発の事故で立ち入りが規制されている「警戒区域」(半径20キロ圏)への一時帰宅について、国の原子力災害現地対策本部は7日、福島県内の対象9市町村のうち、10日の川内村から順次開始すると正式発表した。体が不自由だったり、遠隔地への避難者などは代理人の立ち入りも認める。原発の状況や天候によっては、中止や延期されることもあるという。

住民は警戒区域外に開設する中継地点に集合し、国が用意する防護服を着て、線量計とトランシーバーを携帯する。薬やカメラなどの持ち込みも認める。滞在は約2時間で、支給する縦横約70センチのビニール袋に入る分だけ持ち物を持ち帰ることができる。ペットや家畜、食品の持ち出しは禁止し、自家用車は5月下旬以降に回収する機会を設ける。

中継地点までは主な避難所からバスを運行する。

一部が警戒区域である川内村の対象は123世帯。10、12日の2回に分けて行う。7日夕時点で、初日には49世帯、78人が入る見込み。葛尾村は12日、田村市も近く行う。

川内村に国側から10日実施の正式な連絡があったのは7日午前11時ごろ。

遠藤雄幸村長が職員に、対象住民の参加意思や人数などを確認するよう指示し、職員は電話で連絡し夕方までにほぼ終えた。【関雄輔、栗田亨】

希望新聞と応援メッセージに見入る被災者の家族=岩手県釜石市で7日

「希望新聞」被災者に配布

応援の言葉とチョコ添え

大震災で避難所生活をしている岩手、宮城、福島3県などの被災者に7日、本紙「希望新聞」特別版が配られた。神戸市の中学生らが箱に応援メッセージを書き込んだチョコレートも添えられた。

特別版はブランケット判のカラー8ページで、心のこもったメッセージや支援活動の記事などを掲載している。

チョコレートはネスレ日本(神戸市中央区)が5万個の「キットカット」を無償提供した。

約100人が避難する岩手県釜石市立甲子(かっし)中体育館では、本社社員らが家族ごとに手渡した。津波で自宅を流された小林京子さん(58)は「元気をもらいました。記念に取っておきます」と話していた。茨城、新潟、埼玉、千葉県などの避難所でも配られた。【鬼山親芳、写真も】

◆医療報道シンポ開催

「医療報道の在り方」と「災害時医療と報道」をテーマにしたシンポジウムが7日、東京都千代田区で開かれ、東日本大震災の被災地での医療活動をどう伝えるべきか、活発な議論が交わされた。

基調講演では、岩手県立磐井病院(一関市)の加藤博孝副院長が被災地医療の現状を報告し、「避難所での健康管理が課題になっている」と指摘。医療法務に詳しい井上清成弁護士は「災害時医療が長期化するなら、報道側も客観的で冷静な事実をたゆまず伝えてほしい」と訴えた。この後、ジャーナリストの辰濃哲郎氏▽梅村聡参院議員▽自治医科大教授の尾身茂氏がパネリストになったシンポに移り、「テーマごとに問題の核心を掘り下げる報道を望みたい」といった意見が出た。

◆「岳」公開初日、舞台あいさつ

北アルプスを舞台に山岳救助の現場で起こる命のドラマを描いた映画「岳−ガク−」(毎日新聞社など製作委員会)が7日、全国公開された。東京都千代田区のTOHOシネマズ日劇2で行われた初日舞台あいさつには、小栗旬さん、長澤まさみさんら出演者と片山修監督が登場。撮影中の苦労話などをユーモアたっぷりに披露し、観客を沸かせた。

山岳遭難救助隊の新人隊員、久美が、山岳救助ボランティアの三歩と出会い、さまざまな現場を経験しながら成長する物語。三歩役の小栗さんは「命がけで作った映画で、ちゃんと山に向き合ったことが分かってもらえると思う。生きる勇気やパワーが伝わればうれしい」とあいさつ。久美を演じた長澤さんは「自分が成長していく中で久美の成長を表現できたと思う」。片山監督は「たくさんの人に見てほしい」と述べた。全国315スクリーンで公開。

映画「岳−ガク−」の初日舞台あいさつを行った(左から)片山修監督、渡部篤郎さん、長澤まさみさん、小栗旬さん、佐々木蔵之介さん、石田卓也さん=東京都千代田区で7日、三沢威紀撮影

毎日jpに写真特集

希望新聞

楽しくワンちゃんと

岩手

小国優菜ちゃん(左)と優花ちゃんの双子姉妹=大槌町の安渡小で

声 被災地から

避難所の大槌町立安渡小で遊んでいた同町の双子の姉妹、小国優菜ちゃん(5)と優花ちゃん(5)「家は津波に流されました。地震の日からずっと避難所にいます。ちょっと、つらいけど(他の避難者の飼い犬の)ワンちゃんと遊ぶ時は、とても楽しいです。津波も地震も嫌い。また地震が来たら、すぐに高い所に逃げます」

福島

拓真くんを抱く幕田女公美さん=福島市で

福島市の自治研修センターに避難してきた南相馬市の会社員、幕田女公美(めぐみ)さん(30)「出産直前に被災し、夫の両親と避難してきました。出産する病院もなかなか決まらず不安でしたが、3月27日深夜に陣痛が来て、翌朝福島赤十字病院で長男の拓真が生まれました。南相馬の近くで育てたいけど、いつ戻れるか分からず不安です。それでもこの1カ月、避難所の方々にいろいろ育児の助言もいただけたし、拓真の顔を見ているだけで楽しい気持ちになれた。元気でみんなから好かれる子に育ってほしいです」

宮城

避難所の前に立つ畠山勝栄さん=仙台市若林区で

仙台市若林区のウェルサンピア仙台に避難している同区荒浜の契約社員、畠山勝栄(かつよし)さん(65)「荒浜の自宅が津波で流されてしまいました。がれきの撤去作業の現場に行きましたが、自宅跡の庭に黄色のスイセンが咲いていました。花も、津波に負けずに頑張っているんだと感じました」

Q&A

Q 学用品がなく、困っています
A 文部科学省のウェブサイトも利用を

文部科学省生涯学習政策局政策課に聞きました。

災害救助法では、学用品も給与対象となっています。

住宅に被害を受け教材や文房具、通学用品を失った場合、自治体窓口や学校を通じるなどして支給されます。

支給する学用品の範囲がどこまでか、という問題や、必要な時期までに間に合わなかったりといったことも考えられます。4月1日から「子どもの学び支援ポータルサイト」(http://manabishien.mext.go.jp)を開設しています。

被災した子どもが必要な支援を受けやすくするため、「子どもたちが勉強する椅子や机がほしい」「鉛筆やノートやクレヨンセットがほしい」「家庭教師をしてくれるボランティアの先生にきてほしい」などといった物的・人的な被災者ニーズと、支援できる人の提案内容とをつなぐ目的のものです。

支援の申し出は団体に限っていますが、支援の要請はなるべく地域ごとの集約を呼びかけつつ、個人も登録できるようになっています。

ウェブサイトに接続できない人のために、相談ダイヤル(0800・2071・1688、1689=10〜18時)も当分の間、設置しています。必要な支援や質問など、遠慮なく電話してください。【最上聡】

人生、七転び八起き

遠くの被災地より

母と妻、子供と4人のわが家の生活は、収入は、どうなるのだろう。3週間の避難所生活では不安が募り、夜も眠れませんでした。

宮崎、鹿児島県境の霧島・新燃岳が1月26日、本格的に噴火しました。私の住む高原町南狭野地区は火口から約7キロ。噴火による空振や多量の降灰があり、町の保健福祉センターに自主避難しました。火砕流の危険もあり、町は30日に避難勧告を発令。ピーク時で約600人が避難生活を余儀なくされました。

新燃岳噴火で避難生活した丸目良一さん(56)=宮崎県高原町

家業は山野草の通信販売です。夫婦で自宅敷地にランやツツジ、フクジュソウなど約200種類を鉢植えし、育てていました。「一時帰宅した時、一面2、3センチの灰に覆われ小粒の噴石も散乱していました。2000鉢が全滅です。ぼうぜんと立ち尽くしました。8年前に脱サラし、少しずつ増やした山野草でした。

噴火回数は減りましたが、依然続き、灰も時折降ります。私たち夫婦はひと鉢ずつ灰を取り除きゼロから出発しよう、一歩ずつ進もう、と再起を誓いました。今、山野草栽培仲間の好意で品物を回してもらい、受託販売をしています。収入は減りましたが、全国のお得意様に発送を続けています。

「人生、七転び八起き」という言葉が好きです。自分たちで育てた山野草を、以前のようにお届けしたい。私たち夫婦の思いです。生きて努力を続ければ、希望の明日は必ずきます。強い気持ちを忘れず、お互い生きていきましょう。【聞き手・重春次男】